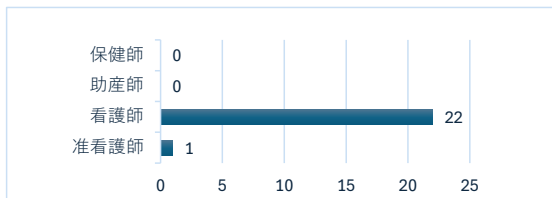


訪問看護師研修事業

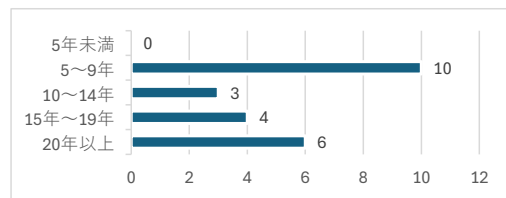
研修名	1) 令和6年度 施設－在宅を支援する看護師育成研修(退院調整看護師育成研修)	
開催日時	令和6年7月25日(木)・7月31日(水)・8月28日(水) 9:30～16:30 実習3日間 期間9月～11月	定員:24名
受講者数	令和6年7月25日(木) 受講者数 28名(令和5年度補講者1名含む) 集合 21名 オンライン 7名	
	7月31日(水) 受講者数 27名 集合20名 オンライン7名	
	8月28日(水) 受講者数 26名(欠席1名) 集合26名	
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・看護実務経験年数が5年以上の看護職 ※看護実践能力の習熟段階レベルⅢ～Ⅳ(高知県看護協会レベル) ・施設・医療機関に勤務する退院調整看護師、または退院調整に携わっている看護職 	
ねらい	退院支援および施設－在宅の連携について学び、看護師の役割を明らかにできる。 施設内の退院支援システムの課題を明らかにできる。 在宅療養者と家族が抱える課題を明らかにして、在宅生活を継続するための支援について学ぶ	
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・社会医療法人近森会 訪問看護ステーションちかもり 所長 在宅看護専門看護師 山本 詩帆 ・高知県立大学看護学部中山間地域等訪問看護師育成講座 特任助教 在宅看護専門看護師 井上 加奈子 ・日本赤十字社高知赤十字病院地域連携課 在宅看護専門看護師 山本 恵理 	
内容	講義 <ul style="list-style-type: none"> ・施設－在宅の移行を支援する看護師の役割と機能 ・施設－在宅の移行期における療養者と家族への支援(実践) ・退院調整の実際 病院・施設内の組織化と在宅への移行期にある事例のケア検討 	講義・演習
	訪問看護ステーション・訪問診療・施設等での実習 <ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問で在宅療養の実際を体験し、在宅移行支援に向けて医療機関看護師の役割を考える 	実習

1.アンケート結果

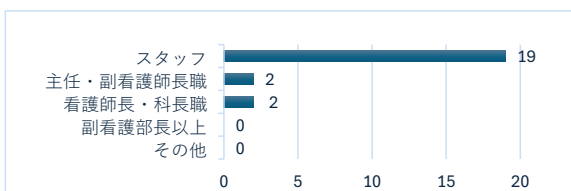
1)職種 (n:23)



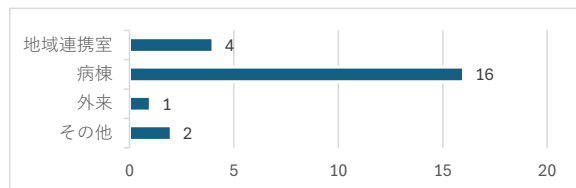
2)経験年数(n:23)



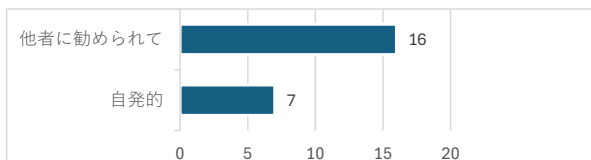
3)職位(n:23)



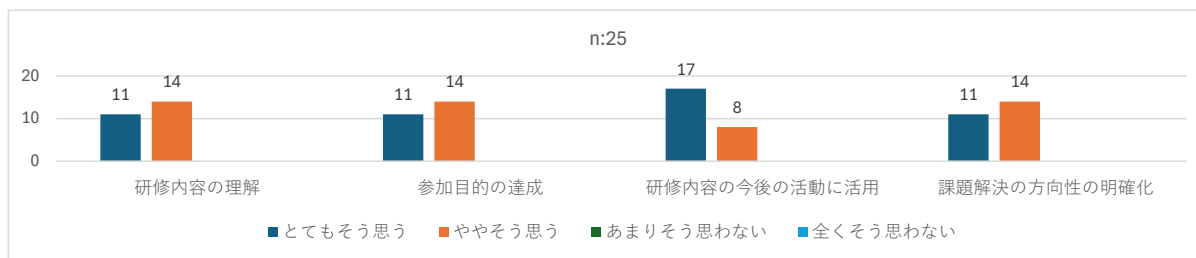
4)勤務場所(n:23)



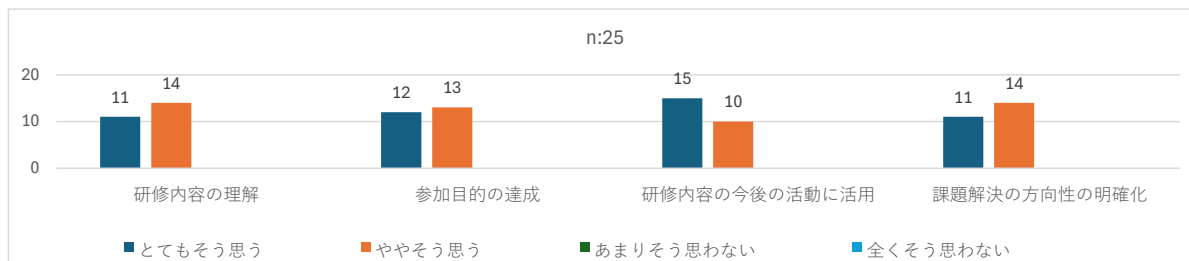
5)参加について (n:23)



6)-①研修内容の評価(1日目午前)施設-在宅を支援する看護師の役割と機能

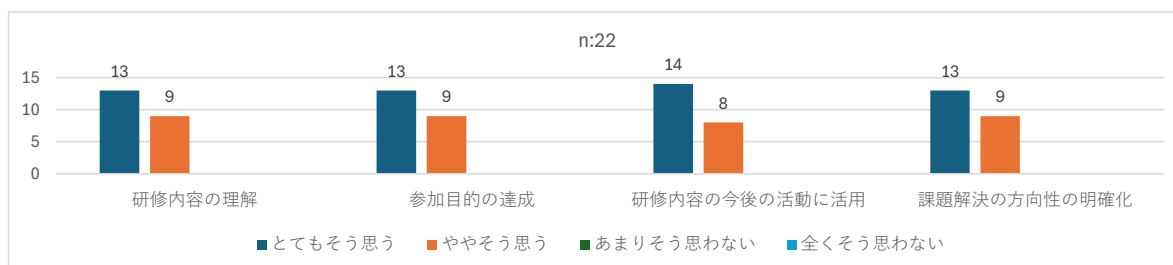


6)-②研修内容の評価(1日目午後)施設-在宅における療養者と家族への支援(実践)



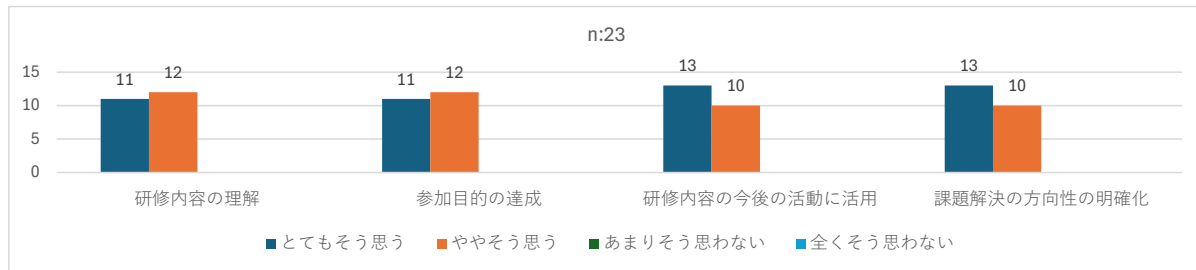
- ・わかりやすく説明してもらい理解できた。
- ・訪問看護の仕組みを改めて学ぶことができた。
- ・在宅は奥が深いと思った。しかし、諦めなければ、多職種と協働することで、可能性が広がると感じる。
- ・この4月から地域連携室勤務で、とにかく先輩の指示で毎日必死でやっていた事が制度のことも含めて理解できた。
- ・とてもわかりやすく講義して下さったので、これからの業務に活かしていこうと思う。
- ・自分が意識していない、地域での看護のことも事細かに説明して下さりとてもイメージが湧きやすかった。急性期病棟なので、入院時からできる退院支援で何があるのかと迷うこともあるが、今後の研修やグループディスカッションを通して学んでいけたらと思う。
- ・今後の退院支援の際に、今回の学びを繋げていきたい。

6)-③研修内容の評価(2日目)退院調整の実際 病院・施設内の組織化



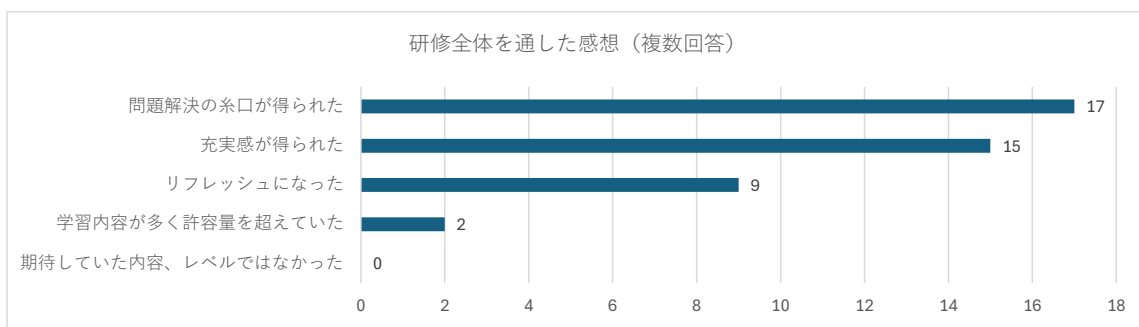
- ・外来看護師として退院時今後どういう動きをしていくか方向付けできたように思う。
- ・具体的にどのように実践していくかを考えることができた。
- ・グループワークで各部署での課題について意見交換する事で、自部署の課題も再確認できた。病棟での仲間作りから多職種と協働できるように微力ながら活動していきたいと思う。
- ・他の病院スタッフと話しができて、様々な気づきがあってよかった。
- ・現場に落とし込みそうな内容もたくさんあり、勉強になった。現場で活用できるようにしていきたいと思う。
- ・とても勉強になった。

6)-④研修内容の評価(3日目)在宅への移行期にある事例のケア検討 ～複雑な課題を持っている事例の検討～



- グループワークの時に、もう少し巡回して頂けたら、つまづいている時にその場で質問でき、解決しやすいと思った。

7) 研修を通した感想(複数回答)



2.意見・感想

- 受け持ち患者さんの退院支援をしたいことが研修参加の動機だった。自分が想像していた以上に広い範囲の知識を得られ、あらゆる分野の他施設の方と様々な事例を共有でき貴重な時間であった。
- 3日間の研修により自分の職場で何をすべきか薄っすら見えてきたように思う。
- 他の病院の方と意見交換や話が出来て楽しく研修受講ができた。

3.研修担当者コメント

昨年と同様に本年度も受講者が27名と募集定員を上回った。今年度より、対象者を経験年数5年以上、看護実践能力習熟段階をⅢ以上と明記し募集した。その結果、研修目的に合った受講者が確保され、前向きで活発な意見交換ができていた。この研修は、講義・演習の他に在宅療養の現場を知る必要を考慮して、同行訪問・見学実習を取り入れ研修を開催している。実習記録には、「本人の希望や家族の意向を早めに確認するの必要を学んだ」「サマリーを記載する時にADL・IADLが必要であると思った」等の実習の学びが記載されていた。指導者のコメントとして、本人のニーズに合い家族の負担の軽減に繋がる安心した在宅生活を支援することや本人・家族との信頼関係を築くことが大切であること、少し視野を広げて看ることの勧め等が記載されていた。以上のことから同行訪問・見学実習は、受講者の貴重な経験となっていると思われる。

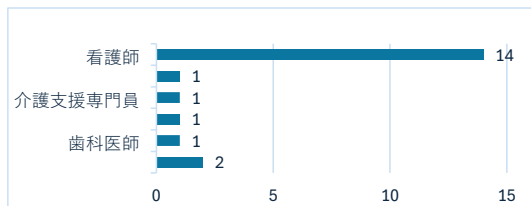
訪問看護師研修事業

研修名	2)令和6年度 施設一在宅を支援する看護師育成研修シンポジウム ～退院困難と思われた患者の在宅移行を支援して～	
開催日時	令和7年2月8日(土)13:30～16:00	
研修形態	集合・オンライン	定員 各50名
受講者数	37名 (会員:19名 非会員:18名)	集合:22名 オンライン:15名
ねらい	在宅への移行支援に必要な知識を得て、医療機関・施設から在宅への円滑な移行を支援できる在宅療養者と家族が抱える課題を明らかにして、在宅生活を継続するための支援について学ぶ	
座長	・高知県立大学看護学部特任教授 森下 安子	
シンポニスト(5名)	・高知高須病院 看護師長 筒井 夏子 ・高知高須病院 退院支援専従看護師 橋村 彩 ・高知高須病院 薬剤師主任 堀切 雅子 ・高知高須病院 社会福祉士 藤田 真依 ・高知中央居宅介護支援事業所 主任介護専門員 高知中央訪問看護ステーション 在宅看護専門看護師 安岡 しずか	
内容	退院困難と思われた人工呼吸器使用の人工透析患者の在宅移行に向けた支援の実際	

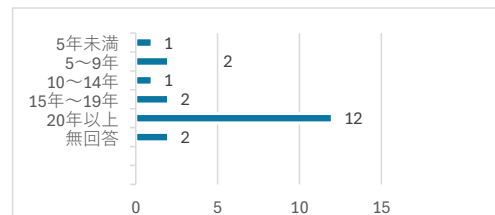
1.アンケート結果

アンケート回答数 20名 回収率 54%

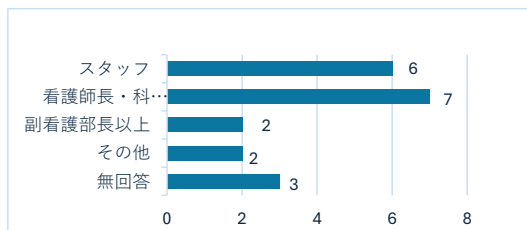
1) 職種



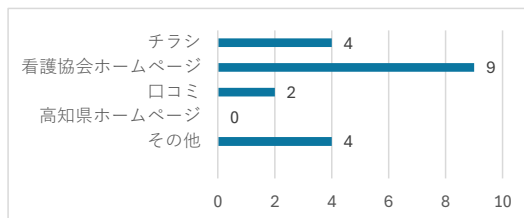
2) 経験年数



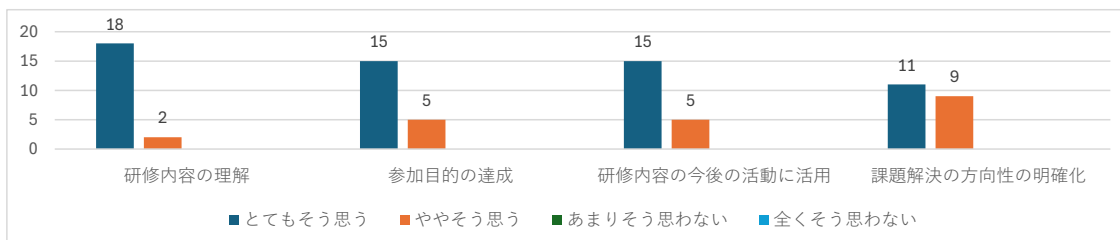
3) 職位



4) この研修を何で知りましたか(複数回答)



5) 研修内容の評価

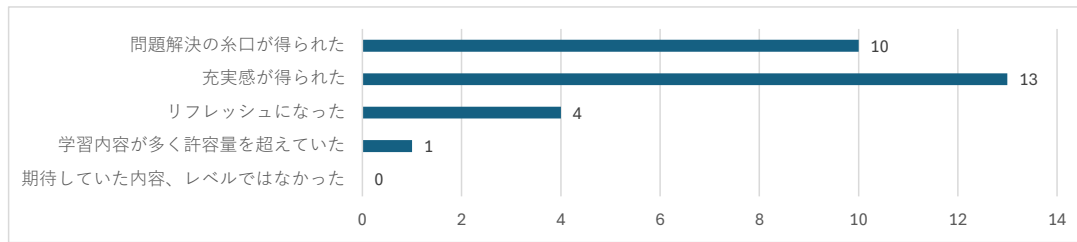


友人からの誘い

職場の医師に勧められた

高知県訪問看護総合支援センターからのお知らせ

6) 研修を通じた感想(複数回答)



2.意見・感想

- 高須病院さんと周囲の方がたくさん関わって実現したことが本当にすごいし、尽力したことがよくわかった。事例検討の場でもそうでしたが、困難事例こそ人手を増やして周囲の人を巻き込まなければ実現しないというのを感じた。
- 配布資料がないのは個人情報保護のためだと思いますが、安岡さんのスライドの一部など制度等に関する資料はメモをしている受講者も多かったので資料としてほしかった人はいたと思う。
- どこの病院も抱えている問題であった。様々な職種との連携や制度を知る事が重要である事を今更ながら再認識した。
- 高須病院さんが、患者さんの意思を尊重し、家族の思いも配慮しながら退院に向け取り組まれた事例は、まさに「チームで取り組む多職連携物語」でした。各々の置かれた立場で検討し、取り組まれた事が細かく紹介されてた。在宅移行支援では大変な思いをされ、またいい経験をされたのではないかと思います。前職では、病棟看護師として退院に関わっていたので、自分だったらどうしただろうと、想像を自問自答しながらの研修だった。今回の研修からも「多職種連携、つなぐ」が大事であると痛感した。
- 会場は暖房が入っていたのでしょうか？寒波で物凄く寒くて足が凍りつきました。足元が冷えすぎて途中から話が入りませんでした。何でもそうですが環境は大事だと思います。関係者から寒さについてお詫びのお言葉はありましたが、シンポジストの方も発表するのに緊張もされてるであろう上にあの寒さでは質問にもうまく答えられないのではないのでしょうか。ONLINEではなく、実際の雰囲気も感じたくて集合を選びましたが残念でした。
- これまで、医療度が高い方の退院支援にも関わってきたが、訪問看護さんなどと連携するのは、退院が近づいてからになることが多く、退院間近になって慌てるケースがあった。今回の事例では、早期から訪問看護さんと連携を取り、助言をもらって退院支援を行ったというところが新しい学びとなった。どんな状態の患者であっても、患者、家族の思いに寄り添っていくためには、医療従事者の連携はとても大切だと思う。躊躇せず、他事業所とも連携を取って少しでも、患者や家族の精神的、肉体的負担を軽減していきたいと思った。今回、参加させて頂き大変多くのことを学ぶことができた。今回の学びを今後に活かしていきたいと思う。
- 医療ニーズの高い方が在宅へ帰られるにあたり、本人や家族の思いを尊重しながら、病院内での連携や早期に在宅資源へ繋ぐなど丁寧に取り組まれている様子が伺えた。医療側も家族も不安が大きいと思うが、課題を丁寧に拾い出し、各関係者の役割を明確にするなど、一つ一つの課題をクリアし在宅生活へのイメージをつけながら行ったことが、家族や受け入れる関係者の安心にも繋がったのではと感じた。今回の退院支援での事例を参考に、自身の事業所でも丁寧に対応できるよう心がけていきたいと思う。
- ケアマネで参加させて頂いた。このような機会があって良かった。独居の人工呼吸器患者様の退院支援をさせて頂いた経験があり振り返りになった。
- とても勉強になった。他職種の支援があることで患者様が不安が軽減し住み慣れた自宅で過ごせる事はとても良いことだと思った。
- 今まで病院勤務のみだった自分自身だからこそできる、わかる、訪問看護、在宅復帰への繋げかた、関わり方の糸口が掴めたような気がする。貴重な発表を聞いて良かった。
- 大変有意義だった。大変勉強になった。凄くよかった。(3名)

3.研修担当者コメント

今回、退院困難と思われた人工呼吸器使用の人工透析患者の在宅移行に向けた支援の実際について、多職種を含めてシンポジウムを開催した。今年度で2回目となるシンポジウムは、多職種(看護職・医師・薬剤師・社会福祉士、理学療法士、介護支援専門員)が参加し、シンポジストの方々とも参加者との意見交換ができた。ただ、研修当日は、寒波の影響で会場内の温度調整が難しく、来場参加者の方々に不快な思いをさせた。今後は、研修案内等に会場時の注意等の案内をに対応していきたい。また、このシンポジウムは、令和6年度の施設一在宅を支援する看護師育成研修事業に含まれているが、参加条件には含まれていないため育成研修受講者の参加がほとんどできていなかった。次年度は、このシンポジウム参加を必須として募集を図りたい。